

# 自立活動だより

今回は、あたご部門小学部の自立活動の時間における指導と、「自閉症指導スタンダード」を軸にした取組についてご紹介します。

## あたご小学部の取組

あたご部門では、小学部1・2年生は週に3時間、3～6年生は週に2時間、自立活動の時間における指導を設けて、日々の学習に取り組んでいます。個別に目標を立て、それぞれの実態に合わせた指導を行っています。今回は、児童の学習の様子についてご紹介します。



＜いろいろな姿勢で体を動かす学習＞  
手や足で体を支え、バランスをとりながら順序よく動かします。次に手や足を置く位置に視線を向けながら進みます。

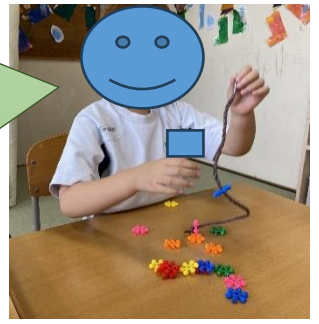


＜感覚を感じて体を動かす学習＞  
パルーンに乗り、足底を床につけて蹴ります。体を前に移動させ、両手を床について自分の体を支えます。

＜発音の学習＞  
鏡を見たり友達と見合ったりしながら、口の形を意識して発音の練習をします。



＜手先を使った学習＞  
手先に視線を向けながら、ひも通しをします。他にも、ボタンの練習や箸を使った活動など手指を使った細かい作業を行います。



＜教師の促しに応じて体を動かす学習＞  
教師の言葉掛けや体に触れる促しに応じて、体をゆるめます。  
教師の手の動きを追って、視線や動かす速さを合わせながら腕を上げる動作をします。



＜バランスを保つ学習＞  
バランスボードに立ち、傾きを感じて立ち直す動きをします。教師の手に触れたりしゃがんで床にある物をとったりします。



＜友達と関わったり協力したりする学習＞  
棒の上に置いたボールを落とさないように協力してボールを運びます。他にも、一緒にフープの中に入り、ペースを合わせて歩く活動などを行います。



＜集団の中で友達と活動する学習＞  
小グループでルールのあるゲームをします。活動の順番やきまりを守ったり、物の貸し借りや交代などの伝え方を考えたりします。



上記以外にも、日常生活動作や気持ちの安定、コミュニケーションなど一人一人に応じてたくさんの指導内容があります。一見すると、全員ブランコに乗って同じ活動をしているように見えても、Aさんは揺れを感じて体の傾きを感じる学習、Bさんは揺れに合わせて手足の曲げ伸ばしをする学習、Cさんは「楽しい！もう1回したい！」という気持ちや要求を伝える学習など、場や教材を共有しながら、個別の目標に向けた学習に取り組んでいます。

## 「自閉症指導スタンダード」の視点を取り入れたあたご小学部の取組

「自閉症指導スタンダード」は、本校における、自閉症のある児童生徒に関わるときに必要な共通のスタンス（学校としての自閉症のある児童生徒への指導の指標）を示したもので、全部で10項目あります。今回は、あたご部門小学部の学習場面を以下の項目の主に「2」、「6」を中心に考えていきます。

### ＜「自閉症指導スタンダード」項目＞

1	説明や指示は、簡単に、かつ具体的にしよう
2	コミュニケーションスキルを高めさせよう
3	予定変更は、本人が分かる方法で伝えよう
4	「いつ」「どこで」「何を」「いつまで（どれくらい）」「どのように」「終わったら、次は何をするか」を明確に伝えよう
5	独特の感覚があることを理解しよう
6	教室の掲示などをシンプルにしよう
7	様々な場面で使えるスキルを育てよう
8	「こだわり」は、本人の「不調」「不安」のサインとしてとらえよう
9	気持ちを切り替える方法や、コントロールする力を身に付けさせよう
10	その行動が適切であったか振り返らせよう

今回は、自閉症スタンダードの「2 コミュニケーションスキルを高めさせよう」、「6 教室の掲示などをシンプルにしよう」の項目を実践した例を取り上げます。他の項目においても、様々な場面で、特性に応じて、見通しをもって活動ができるように支援を工夫しています。児童生徒が、より安心して、自信をもって学習に取り組めるよう、今後も自閉症スタンダードの10項目の視点を大事にして指導を工夫していきます。

### 【2 コミュニケーションスキルを高めさせよう】の実践例

＜手話やサインの使用＞  
手話を用いて、友達や教師の名前、したいことなどを伝えます。写真は、「トイレ」を表現しています。



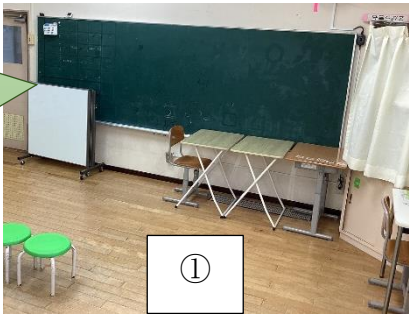
＜写真カードの使用＞  
水筒やトイレ、玩具などのカードの中から選び、カードを指さしたり、教師に手渡したりして要求や気持ちを伝えます。



### 【6 教室の掲示などをシンプルにしよう】の実践例


#### ①教室前方（児童席の正面） ②教室側方（児童席の左側）

＜黒板・ホワイトボード＞  
黒板などの近くは、視覚刺激となる物を置きません。ミニホワイトボードを使用して近くで提示したり、提示した教材に注目できるように赤枠で囲ったりして、注目すべき部分を分かりやすくします。



①

＜ついたてやカーテンの使用＞  
授業で使わない物は、カーテンで見えないようにし、視界をすっきりさせます。より集中できる環境で学習する際は、ついたてを使用して、個室空間を作ります。



②

＜荷物の整理棚＞  
名前は、文字以外にも児童別に色分けしたり、マークをつけたりして判別しやすいようにします。水筒や給食セット、連絡帳などを入れるかごは定位置に設置します。

＜掲示物＞  
児童の作品や学級通信、生活目標や給食目標などは、学習時に児童の視界にできるだけ入らない場所に掲示します。